

「達成目標年の設定に係る専門的課題協議会（第2回）」議事概要

1 開催日時

令和7年12月26日（金）午前10時～午前11時

2 開催場所

農林水産省本館2階 畜産局第1会議室

3 出席委員

近藤 康二	公益社団法人中央畜産会 専務理事
佐藤 勸	全国農業協同組合連合会 畜産総合対策部 部長
新村 毅	東京農工大学大学院農学研究院 教授
寺田 文典	元 東北大学大学院農学研究科 教授
八木 淳公	公益社団法人畜産技術協会 常務理事

4 会議の運営

（1）資料の説明

- ・資料3に基づき、農林水産省より第1回検討会のおさらいと今回の検討内容について説明を行った。

5 議事概要

【アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針における事項ごとの達成目標の検討について】

- 提案の内容で良いのではないかと。資料3 P11のR6調査結果の「あてはまる計」の値が既に90%に達している事項に対する達成水準の値を90%に定めることの是非については、既に高い水準である現状を維持するものであるというニュアンスが伝わるような表現であれば問題ない。一方で、「あてはまる計」が90%に達していても、「あてはまる計」に占める「ややあてはまる」の割合が目立つところもあるため、今後は「ややあてはまる」から「あてはまる」に回答が移行する質的な向上についても期待したい。
- 「あてはまる計」の値90%を当面の達成水準とすることに異存はない。
また、達成までの道のりが長い事項に対する中間目標として、現状の「あてはまる計」の値から10ポイント向上を目指すという考え方も良いと思う。
「あてはまる計」の値が90%を超えている事項に対して90%の達成水準を設けるということについては、「あてはまる計」が90%以上でさえあれば現状値より取組度合いが下がってもよい」という誤解を与えないような表現をしてほしい。また、「ややあてはまる」を「あてはまる」にしていくことや回答割合の変化についても、分析の中で触れるような形で今後示していくことをお願いしたい。目標年度は12年度になっているが、目標年度までの隔年調査で10%の向上を達成した場合にはどうするのか気になるところ。

12 年度を目標年度にすること自体に異存はないが、分析などの際に触れる等をした方がよい。総合的な評価の方法についても今回提案の内容に賛同する。

- 「あてはまる計」の値 90%は妥当な達成水準である。今後達成水準をどうしていくか、調査等で経過を見ながら5年後の見直しなどで検討していくのがいいだろう。現状達成までの道のりが長い事項の目標設定の方向性についても、常に改善していく、ということを考えると 10%程度の向上を目指して改善を図っていくということで良いのではないか。

現在既に「あてはまる計」の値が 90%を達成している事項は現状維持ということがきちんと分かるようにすればいいだろう。総合的な評価についても、指針で示されている推奨事項は現場で実施すべきボトムラインである、という国の考え方に賛同するところ。生産者に取り組むはボトムラインであることを認識していただくことが必要で、国からは最終的にどこを目指すのか、ということを確認しておくことがいいのかと思う。

- 目標設定の方向性について提案の内容に賛成。現状達成までの道のりが長い事項について、暫定的に 10%の向上を目指すということで良いのではないか。例えば、採卵鶏の換羽やブロイラーの暗期の設定については 10%の向上であっても難しいのではないかと当初は考えていたが、参考資料の取組み調査の経年比較や実際の生産者の話を伺って、強制換羽をしなくても生産性が確保できるような育種が進んでいるという実感もあり、現場でかなり取組が進んでいる印象を受けた。10%の向上という暫定水準も達成可能なものだろう。

- 現状達成までの道のりが長い事項の暫定目標について、10%向上で良いと思う。ただ、個人的には、アニマルウェルフェアの知識習得に関する事項については現状値がかなり低いので、10%ではなくもう少し上を目指すことが必要だと感じている。また、取組状況の総合的な評価については、もし認証であれば8割の項目がクリアしていれば合格といった考え方もあるが、今回はあくまでも生産者に取り組んでもらいたい最低限の事項であることから、資料中の例にあるように達成した事項が何%というような評価は要らないのではないか。

〔事務局〕

- ・ 「あてはまる計」の値が既に 90%に達している事項の目標設定の書き方を、数値を下げるような目標値ではないことがわかるようにすることや、委員からご指摘のあった質的な向上についても工夫を考えていきたい。
- ・ 1 回目の検討会で頂いた御意見を踏まえて提案させていただいたということもあり、今回の議題について委員の皆様にも概ね賛意を得られたも

のと考えている。今後は畜種別の専門家を交えて、今回皆さまからいただいた御指摘を頂いた細かい項目を含めて、御意見をさらに伺いながら、適切な目標設定となるように検討していきたい。

- ・ 委員からご指摘のあった各畜種に共通した事項を並べてみると、畜種によって「あてはまる計」の値が60%だったり、80%だったりという状況であるが、個別に目標を設定することも違和感がある。データを見直し、共通した目標を設定していくことができるのであれば、各事項の意味からすれば親和性が高いと思うので、委員の皆様と相談させていただきながら進めていきたい。

【その他】

● アニマルウェルフェアの普及

- アニマルウェルフェアの知識習得に関する事項の目標値については、本件がアニマルウェルフェアに関する取組みの達成目標なので、「あてはまる計」の値は高い水準を目指す必要があると感じている。これまでの経験からアニマルウェルフェアの普及が難しいということは承知しているが、生産者に対する更なる普及を今後どのように行っていくべきか検討していく必要がある。
- アニマルウェルフェアの知識習得と災害対応に関する事項はどの畜種でも共通して低い傾向がある。これらの事項は個別の畜種で事情が大きく異なるものでもないのに、畜種別に目標を定めるのではなく、共通の目標を設定してもいいのではないか。
- 他の委員から意見のあったアニマルウェルフェアの知識習得の部分について、他の調査でも、単に「アニマルウェルフェア」と聞くと取組度合いが低い傾向にある。『普段の飼養管理をきちんとやること』がアニマルウェルフェアに繋がる、ということの理解度を高めるような取り組みも必要ではないか。理解度の向上を働きかければ、すぐにでも達成が可能な項目であると感じる。
- 他の委員から御意見のあった「普及」について、難しいがやっていかなくてはならないことだと感じている。しかし、法人格の有無や家族経営かどうかといった生産者の規模によって情報を得られる環境が違う。生産者全体に対し、取りこぼしがないように普及推進していくことが重要だと考えているので、今後、普及についても全体で協議していけたらいいと思う。

〔事務局〕

- ・ 普及については委員も色々感じておられるところがあると思う。目新しい効果的な方法がなかなか見つからないのが現状。過去実施してきている

ことに改善を積み重ねながら普及を図っていくことになると思う。実際に行うこととしては、周知やセミナーというのが基本かと思うが、地道に認知・理解を上げるということを基本に進めていきたい。

● R6 調査結果のデータの見方

- 専門委員会での検討の際には調査項目のチェックをしていただきたい。例えば採卵鶏の換羽処理の際の絶食について「あてはまらない」が 29.2%ある。ここは換羽処理をやっていないということなのか、絶食をやっているということなのか。
- 換羽処理を「行っていない」と答えた人が誤って回答していることもあるのかと思っていた。この設問以外にも「あてはまらない」が誤答なのかどうか判断が付きにくい設問があるので、畜種別検討会にて専門家の皆様の感覚で確認していただいた方が良い。

〔事務局〕

- ・ 換羽処理の設問は、前段に換羽処理を「行っている」「行っていない」を選択する仕様になっており、「行っている」と答えた人の回答結果となっている。「あてはまらない」は換羽処理をしている方のうち、絶食による処理を行っている方の割合と考えられる。前回の試行調査を踏まえて調整をした設問。特に Web では不要な設問は表示されないようにしているため、間違いは少ないかと考えている。
- ・ 専門委員会では資料作成の際に、前段の設問への回答があった上での回答であるということが分かるような表現を考えたい。

● 現状で取組状況が低い項目についての対応

- 調査結果の設問ごとに見ていくと特に危機管理マニュアルの整備について、どの畜種も低い。お手本になるようなマニュアルを作成して公開してはどうか。
- 換羽処理については、育種改良により、換羽が不要な育種が進んでいるという情報がある。このような最新の情報を生産者は知らないのではないか。調査の一環で最新の情報を収集し、情報提供できるようにしてはどうか。換羽処理をしなくていい、ということはアニマルウェルフェアの向上だけでなく、生産性が上がるよい取組みなので、生産者への情報提供ができると良い。ブロイラーの暗期の設定についても、実証調査を行っている生産者に情報を提供いただいて取りまとめたものを発信することで、アニマルウェルフェアへの取り組みが生産性にも良いことを知らない生産者にも周知することができ、結果として指針の取組状況についても目標が達成できる、という流れをつくることが重要。

- ブロイラー、採卵鶏については海外の品種がほとんどになるかと思う。そういった品種の育種改良を行っている会社等を訪問して今後の育種や戦略的な部分も含めて情報収集を行い、分かりやすく整理した情報を生産者に周知していく、というイメージか。鶏以外の他の畜種でも最新の育種改良的な情報はあるのか。

〔事務局〕

- ・ 専門委員会では、目標の設定はいいが、達成に向けた取組・対応という視点で「こういうことをやって欲しい」という要望等が出ることが予想される。そのうち可能なものについては、事業化を検討することも考えられるかと思う。農水省でも積極的に情報発信していきたいと考えているほか、補助事業でもクラスター事業などでアニマルウェルフェアを対象とした、生産性の向上だけを目的にしているメニューを作成したりしている。そういった支援策についても次回の専門委員会では御説明したい。
- ・ 牛の育種の話について、除角の代替手段として無角の品種を選択している生産者がいるという話は聞く。現在の飼い方を維持したままアニマルウェルフェアに取り組みたいという生産者で、ある程度の生産量が確保できればよいという経営方針の方が無角を選択しているということだが、牛にとっても人にとってもストレスが少ない、と聞いている。

【次回の開催について】

〔事務局〕

- ・ 本日いただいた意見を加味しながら専門別委員会（大家畜・中小家畜）においても、引き続き検討を進めていきたい。